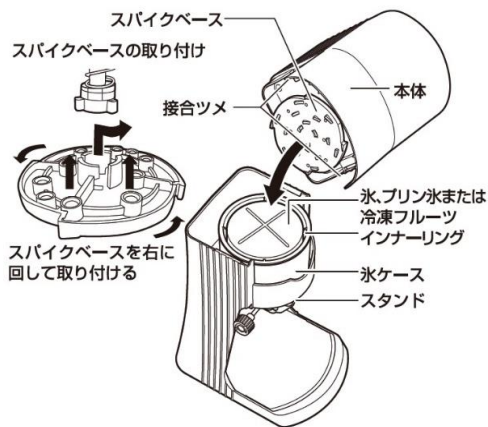


正しい使いかた (つづき)

《氷・冷凍フルーツ・プリン氷共通》

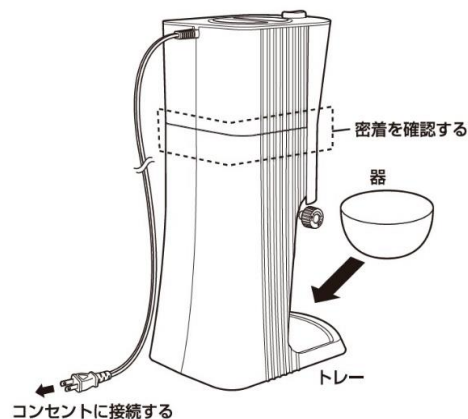
4. 本体にスパイクベースを取り付け、スパイクベースで氷または冷凍フルーツ・プリン氷を押さえつけるように本体をスタンドに取り付ける

※特に水以外の氷を入れたときは、氷が比較的柔らかくスパイクベースのところで空回りすることもあるため、本体を取り付けるとき、スパイクベースを氷、プリン氷または冷凍フルーツに食い込ませる感覚で取り付けてください。取り付けづらいときは、本体をスタンドに押し込んで、左右の接合ツメがスタンドにしっかり取り付けられていることを確認ください。



5. 本体とスタンドがぴったり接合されてロックされていることを確認し、トレーに、調理物を受ける器を用意する

6. 電源プラグをコンセントに接続する



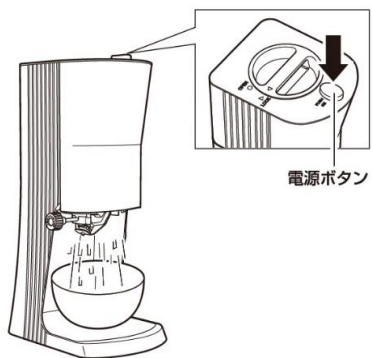
7. 電源ボタンを押して、調理を開始する
本体をしっかり押さえて、電源ボタンを押してください。

注意 2分以上の連続運転はしない。
モーター故障の原因になります。

本体の電源ボタンを押さないと製品は作動しません。また、本体をスタンドに正しく取り付けしていない状態では作動しません。

本体の電源ボタンから指を離すと停止します。

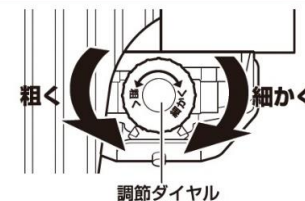
- 氷が無くなっても、自動で止まりませんので、電源ボタンから指を離して停止させてください。
- 器にかたよって調理されたときは、器を回転させてください。



【とろとろふわふわに削る方法】

できあがりの細かさ・粗さを調節できます。

- ①【細かく】の方向に止まるまで回してください。
(刃が一番低い状態になり、氷は削れない場合があります。)
・カチカチ音は【細かく】の最後まで回した状態です。
- ②氷を削りながら調節ダイヤルをゆっくりと反時計回り【粗く】に回してください。
調節ダイヤルを回しすぎるとカチカチと音がしますが故障ではありません。
- ③氷が削れ出したらお好みの粗さで調節ダイヤルを止めて、そのまま削ってください。
氷の状態により一番「細かく」設定(最後まで回した状態)でも削れる場合がありますが、不良ではありません。
・カチカチ音がした状態で回し続けると調節ダイヤルの破損や故障の原因になります。
・カチカチ音は【細かく】【粗く】の最後まで回した状態です。



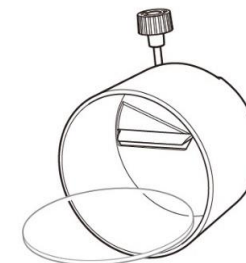
※一定の位置では削れない場合があります。
※氷の状態により削り具合は変化しますので、必要に応じて氷を削りながらこまめに調節を行ってください。
※アルコールを含んだ氷を削らないでください。
※周囲に削れた氷が飛び散るので、口径の小さい器に氷を削るときは、ぬれても良い場所か、器の下にふきんなどを敷いて削ってください。
※調節ダイヤルを強く回しすぎると、回らなくなることがあります。

8. 本体をスタンドからはずし、スタンドから氷ケースに残った氷、プリン氷または冷凍フルーツを取り除く

構造上、氷ケース内に氷が残りますが故障ではありません。

続けて氷を削るときは、氷ケース内に残っている氷、プリン氷または冷凍フルーツは、必ず取り除いてください。残ったまま新しい氷、プリン氷または冷凍フルーツを入れると空回りして削れません。

※使用後は、本体に付着した水が垂れることがあります。ふきんなどの上において水切りをしてください。



注意

氷ケースに残った氷、プリン氷または冷凍フルーツは取り除く。

スパイクベースと刃があたらぬような構造になっているため、氷ケース内に氷、プリン氷または冷凍フルーツが残ります。故障ではありません。残ったまま新しい氷、プリン氷または冷凍フルーツを入れると空回りして削れません。

調理を終えたら

9. 調理を終えたら、電源プラグをコンセントから抜き、お手入れをする

氷を削り終えたら、本体以外を洗って、十分乾燥させます(「お手入れと保存」11~12ページ)。

注意

使用後は十分お手入れをして乾燥させる。
特に水以外のものを凍らせて削ったときは、そのままにしておくと、すぐにサビやカビなどの発生原因になります。